

経済・金融 フラッシュ

2月 BOE 金融政策委員会: 量的緩和の拡大は「一旦休止」

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行(BOE)は3~4日に開催した金融政策委員会(MPC)で、政策金利の0.5%での据え置きと中長期国債等の資産買い取り(量的緩和)枠の拡大の見送りを決めたが、「見通しにより正当化される場合には追加の買い入れを実施する」として買い入れの再開に含みを残した。

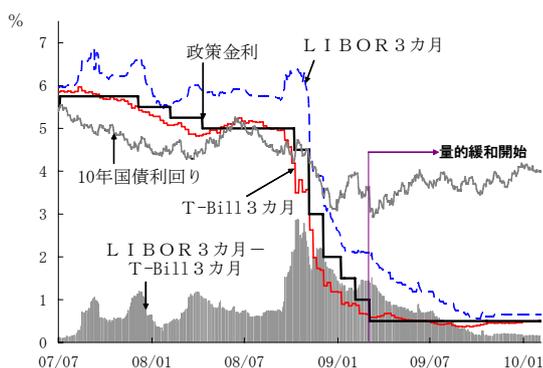
量的緩和の「一旦休止」という判断は、足もとでは景気が持ち直し、インフレ率が上振れる一方、先行きの景気回復の足取りは重いと予想され、財政赤字の拡大、総選挙を控えた政情の不透明さなどから、ポンド急落、国債利回り上昇のリスクにも備える必要があることによるとと思われる。

5月の総選挙を控え、しばらくの間、BOEは「現状維持」を続けると考えられる。

(政策金利は据え置き、量的緩和は「一旦休止」)

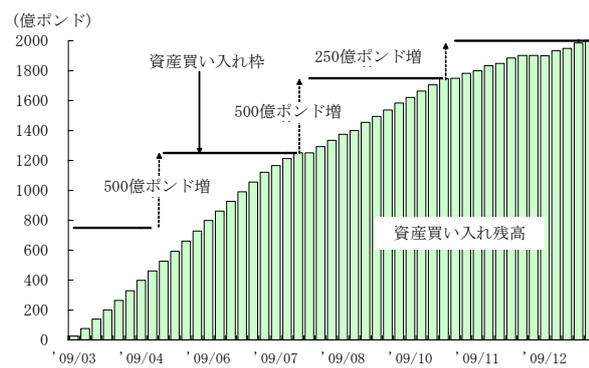
イングランド銀行(BOE)は3~4日に開催した金融政策委員会(MPC)で、政策金利の0.5%での据え置き(図表1)と、11月に2000億ポンド(2008年名目GDP比13.8%)に増枠した資産買い取り(量的緩和)枠の拡大の見送りを決めた(図表2)。

図表1 BOEの政策金利と長短金利



(資料)BOE

図表2 BOEの資産買い入れ枠・残高推移



(資料)BOE

イギリス経済は、6四半期にわたるマイナス成長の後、2009年10~12月期はようやくプラス成長に転じたが、前期比0.1%と2008年1~3月期のピーク比で6%ものGDPの落ち込みに対する反動や、景気対策として一時的に引き下げられた付加価値税率(VAT)の2010年初からの再引き上げを控えた駆け込み需要による押上げという期待に対して、予想以上に低い成長に留まった

(図表3)。その一方、BOEが金融政策のターゲットとしているインフレ率はエネルギー価格の影響で、12月は前年同月比2.9%と11月の同1.9%から大きく跳ね上がった(図表4)。

BOEは、政策変更時のみMPC終了後に声明文を公表するが、今回の声明文では「生産活動の回復は緩やかであり、かなりの割合の生産要素が利用されていない状態が続くため(向こう2年間という)予測期間中、インフレ率はターゲット(2%)を下回る」との見方を示した上で、「中期的なインフレ目標の達成には、政策金利を0.5%に維持し、資産買い入れ残高を2000億ポンドで維持することが適当と判断した」と説明している。

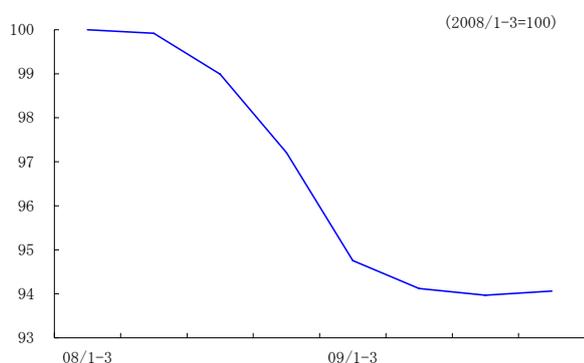
(出口戦略の前進、量的緩和再開の双方の可能性はあるが、当面は現状維持が濃厚)

量的緩和の「一旦休止」という判断は、足もとでは景気が持ち直し、インフレ率が上振れる一方、先行きの景気回復の足取りは重いと予想され、財政赤字の拡大、総選挙を控えた政情の不透明さなどから、ポンド急落、国債利回り上昇のリスクにも備える必要があることによると思われる。

BOEの量的緩和は、当初、750億ポンドでスタート、2009年中には、5月、8月、11月とMPCの議論と政策決定のベースとなる「インフレ報告」の公表月に枠を拡大する決定を行ってきた。今回の拡大停止の決定も2月10日に公表予定の「インフレ報告」に基づくものである。次の政策変更も、「インフレ報告」公表月に実施される見通しであり、経済情勢次第で、買い入れた資産の売却や政策金利の引き上げという「出口戦略」の前進と枠の再拡大の双方があり得るが、5月6日の実施が見込まれる総選挙を控えて、財政政策の先行きに不透明感があることなどから、しばらくは「現状維持」を続けると考えられる。

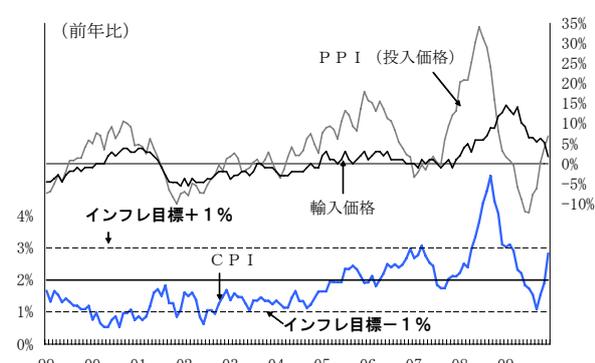
なお、これまでの量的緩和をめぐる決定は、昨年3月の導入時と5月の増枠は全会一致であったが、8月は増枠の方向では一致したが金額を巡って票が割れ、11月は250億ポンドという最終決定に対して、より多くの増枠と増枠の見送りに1票ずつが投じられた。資産買い入れ再開に含みを残した今回も票決は割れた可能性が高く、議論の内容と票決の内訳が明らかになる17日公表の議事録に注目したい。

図表3 イギリスの実質GDP



(資料)ONS

図表4 イギリスのインフレ率



(資料)ONS

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。